

バスに乗ろう！

バスに乗って見つける新たな発見 (多摩市)



ミニバス運行実験

「愛宕・和田地区と永山駅を結ぶミニバス」の運行実験が10月10日から始まった。

昭和47年に入居が始まった同地区では住民の高齢化が進み、バス通りに出るにも多摩丘陵の高低差による急な坂道や階段が負担となっている。平成19年住民有志が「ミニバスを考える会」を立ち上げ、翌年地域の自治会や管理組合、老人会などが参加し「ミニバスを走らせる会」として住民アンケートや公聴会を行い「テスト走行や運行計画等を検討してきた。また、東京都市大学環境情報学部の小池星多准教授と研究室の3、4年生19名の学生らが協力し運行経路の模型やホームページ、停留所の時刻表、広告ティッシュ等を作成、更にバス内で流れるアナウンスも吹き込んだ。

実験は来年1月9日迄3カ月間行われるが、運行状況や採算性などを検証し、運行が実現となるかどうかが決まる。「本格運行の鍵は乗車人数。みんなで利用し運行を実現させたい」と同会会長の

↑ 運行経路の模型を前に、小池准教授（後列右）と研究室の学生。
→ テープカットをする多摩市長ら



竹内東朗さん（77歳。写真右から2番目）。

10日、永山駅でのセレモニー終了後の9時15分発のバスに乗車した愛宕2丁目に住む女性たちは「これで便利になる、助かります」と話していた。試験運行は京王電鉄バスが行い、「和田ルート」は永山駅始発午前7時45分〜午後6時15分。いずれも90分間隔で1日8便運行。運賃は全線大人170円、こども90円。PASMO、Suicaは使えるがシルバーバスについては運行が本格化するまでは利用不可。

本格運行を可能にするには、地域住民の積極的なミニバス利用が採算ベースを決定づけることになる。環境問題からもマイカーの運転を減らし、公共輸送手段を選択することが求められている時代、コミュニティバスは積極的に活用したい。